



営農

INFORMATION

トルコギキョウのYYSV感染

平成15年ごろから九州や四国、関東の一部地域で、トルコギキョウ、ユーチャリス、アマニ、ニラなどでYYSV（Tomato Yellow Vein Virus）の被害が報告されました。JAふかや管内でも今年に入って初めて、施設栽培のトルコギキョウで発生が確認されました。今回はこの新しい病気についてお知らせします。

▼ YYSVに感染したトルコギキョウの病葉



図-1

図-2

▼ YYSVに感染したユーチャリスの病葉



図-3

図-4

① YYSVの特性
YYSVの特性は、伝染力を持つのは球体の粒子です。管内のトマトなどで発生しているYYSV（トマト黄化ウイルス）の特性は、伝染力を持つのは球体の粒子です。管内のトマトなどで発生しているYYSV（トマト黄化ウイルス）の特性は、伝染力を持つのは球体の粒子です。

YYSVを媒介するネギアザミウマ（成虫）



図-5

平成16年1月、管内の施設栽培のトルコギキョウで、上述の図1～4、5と、やぶ蚊などの症状が発生しました。中には収穫不能の株も多く見られた問題となりました。管内でも施設栽培のユーチャリス（図3・4）で、葉先や株の黄化、萎縮の症状が発生し、

ネギアザミウマ

ネギアザミウマは、ネギ・アマニ・ニンニクなどの土壌害虫であるが、寄生植物は極めて多い。体長は1.1～1.6mm、体色は黄色のものから黒色のものまで変異が見られる。産卵は産卵早く、産卵した卵は20℃で20日、20℃で16～17日で成虫になる。産卵期は4月～9月で、この期間に高温多湿の発生条件が重なると多発生する。

9月まで野菜の栽培

表-1 施設栽培

リンドウ科	: トルコギキョウ
アルストロメリア科	: アルストロメリア
ユリ科	: タマネギ・リーモ・パルピネ (ビルパオ)
ヒガンバナ科	: アマリリス・クリビア (クンシラン)
アヤメ科	: ダッチアイリス
ヒユ科	: センニチコウ

① YYSVの症状は品種によって異なるりますが、一般的には葉の黄化、葉の萎縮、葉の縮れ、葉の萎縮、株の萎縮などを発症します。トルコギキョウに感染する他の

表-2 トルコギキョウに登録がある防除薬剤と農薬使用基準

薬剤名	使用時期	使用回数	発症回数・使用量	10a当たり散布量
マブリック水和剤R20	発生初期	2回以内	4,000倍	—
スカウトフロアブル	—	5回以内	2,000倍	—
ハイオフM E 液剤	発生初期	3回以内	2,000倍	150～300 L / 10a
ジェオレート粒剤	発生初期	5回以内	1株当たり1～2g 株元散布	—
ジェイエース粒剤	発生初期	5回以内	1株当たり1～2g 株元散布	—

② YYSVの症状は品種によって異なるりますが、一般的には葉の黄化、葉の萎縮、葉の縮れ、葉の萎縮、株の萎縮などを発症します。トルコギキョウに感染する他の

表-3 花き類に登録がある防除薬剤と農薬使用基準

薬剤名	使用時期	使用回数	発症回数・使用量
オルトラン水和剤	発生初期	5回以内	1,000～1,500倍
オルトラン粒剤	発生初期	5回以内	3～6g / 10a 株元散布
マラソン乳剤	発生初期	6回以内	2,000～3,000倍

③ 農薬により登録内容が異なるため、ラベルをよく読んでください。

④ YYSVによる被害は、現在花き類を中心に発生しており、被害の被害が広がっています。管内では平成14年から現在まで、手取原・静岡県・長野県・神奈川県で確認されています。

⑤ YYSVは9月20～25日まで、ネギアザミウマは一定以上の大きさで発生すると、検出しやすくなります。

⑥ YYSVは9月20～25日まで、ネギアザミウマは一定以上の大きさで発生すると、検出しやすくなります。